

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		住民参加によるインカ道の保全と活用:ペルー国アンカシュ県の事例研究			
研究テーマ (欧文) AZ		Estudio Caso para la Conservación del Camino Inka y la Participación de las Comunidades de la zona Conchucos - Ancash - Perú.			
研究氏 代表名 者	カナ CC	姓) オオタニ	名) ヒロノリ	研究期間 B	2010 ~ 2012 年
	漢字 CB	大谷	博則	報告年度 YR	2012 年
	ローマ字 CZ	Otani	Hironori	研究機関名	
研究代表者 CD 所属機関・職名		大谷博則			
<p>概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)</p> <p>本研究目的は、グローバル化社会に包括されながらも自立を目指す地域社会の動きとして、ペルーにおけるインカ道の世界遺産登録活動に伴う開発プロジェクトをとりあげ、その問題点と社会・政治的意味づけを実証的かつ多角的に明らかにし、地域社会の実情に根差したマイクロな視点とグローバルなマクロな視点との融合を通じて、住民参加による文化遺産の保全活用を可能とする社会的枠組みを構築することにある。そのため、住民主体によるインカ道の保全活用が行われているアンカシュ県コンチュコス地域において調査を行った。</p> <p>具体的に、インカ道の同定とその損壊・利用状況の把握、地域住民や関係機関のインカ道に対する認識と関心の把握を行い、地域社会の実情を踏まえたうえで、マクロレベルでの制度構築を始めた。</p> <p>初めに、ポータブル GPS によるインカ道の踏査とインタビュー調査により、インカ道ならびに関連する遺跡を記録し、インカ道の損壊状況の把握と、地域住民のインカ道に対する認識や利用状況を把握した。この調査により、コンチュコス地域のインカ道の同定が 95%以上完了し、地域住民の悪意のない破壊などが確認された。</p> <p>次に、関係者へのインタビュー調査により、ペルー文化省のインカ道計画の進行状況や地方自治体のインカ道に対する関心が把握した。インカ道計画の2012年7月現在での成果では、今後の世界遺産登録が困難であることがうかがえた。また、地方自治体のインカ道に対する関心は高まっており、2011年9月以降、申請者はコンチュコス地域において具体的なインカ道保全活用事業の立案を地方自治体との協働により進めてきた。</p> <p>最後に、現状での住民のインカ道に対する関心が薄く、住民参加によるインカ道の保全活用を実現することが困難と判断した。そのため、歩道の改良工事に出資している地方道路網維持管理部門、ペルー文化省とコンチュコス地域の地方自治体との連携体制構築することで、インカ道の保全事業を実現するための会議を設けてきた。本事業の実現により、地域住民がインカ道を新たな経済・文化・観光資源として認識する契機としたい。</p>					
キーワード FA	インカ道	ペルー	コンチュコス地域	文化遺産の保全活用	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	～	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^H	
図書	著者名 ^{HA}								
	書名 ^{HC}								
	出版者 ^{HB}		発行年 ^{HD}					総ページ ^H	

欧文概要 ^{EZ}

Según la Visión de este estudio, se pretende impulsar la conservación y desarrollo para mejorar la calidad de vida de las comunidades aledañas al Camino Inca en la Zona Conchucos. Las Comunidades asociadas y los Gobiernos Locales, están promoviendo el uso y conservación del Camino Inca, en atención al enfoque del Programa Qhapaq Ñan (PQÑ), para su nominación a Patrimonio Cultural de la Humanidad por UNESCO, por lo que, con este objetivo se ha realizado la Investigación Arqueológica y Antropológica en el tramo Conchucos - Huamanín, y los resultados son:

Primero.- Levantamiento topográfico con GPS portátil, habiendo registrado más del 95% del Camino Inca y sus características.

Segundo.- Entrevistas a los usuarios del Camino, que manifiestan su interés de uso, pero desconocen que se trata de un Camino Inca, identificándolo como “Camino de Herradura”.

Tercero.- Entrevistas con el personal del Programa Qhapaq Ñan, Provias Descentralizado, Alcaldes y funcionarios de Gobiernos Locales de la zona; en todos hay el interés por el Camino Inca, pero no cuentan con Proyectos de Conservación y Desarrollo y/o coordinación entre estos sectores.

Finalmente, por mi propia iniciativa, he organizado un estudio a nivel de Expediente Técnico para el “Mejoramiento del Camino Inca en la Zona Conchucos” como un piloto entre Programa Qhapaq Ñan, Provias Descentralizado y el Gobierno Provincial de Huari, con el fin de involucrar a las comunidades locales con una nueva VISIÓN económica, cultural, social y turística.